

## シグマ研究委員会 核融合核データ・ワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和56年3月24日(火) 13:30~17:30  
場 所 原研東海研究所 研2棟322号室  
出席者 村田(NAIG), 神田(九大), 西村, 関, 中島, 田中, 浅見(原研)  
オブザーバ: 五十嵐, 菊池(原研)

### 配布資料

1. 前回会合(55.8.20)議事録
2. Data Request for WRENDA (Fusion関係)
- ~~3. Assessment of Nuclear Data for INTOR~~
4. DDX作成作業の調整会合報告
5. 核融合核データ・ワーキンググループ56年度計画
6. NESTOR-2 リスト例
7. 核種の分担
8. 角分布データのプロット例

### 議 事

1. 前回議事録確認  
資料(1)により確認を行った。
2. 一般報告(浅見)  
シグマ研究委員会全般の最近の活動状況とくに, 運営委員会, JENDL-3  
検討小委員会, DDX作業のためのWGの新設等について説明があった。  
また, ヨーロッパの総一核データライブラリー, 阪大での核融合炉関係の研究  
会(1/8-9)の説明も行われた。日本の要求データとしてWRENDA  
に登録するFusion関係のデータの紹介があった(資料(2))
3. INTOR用核データ  
関氏より, ~~資料(3)にもとづき~~, INTOR開発に必要な核データに対する  
日本の要求をまとめる要請のあったことが報告され, 対処方について討議  
を行った。その結果, 最近WRENDAにまとめたものの中からFusion  
関係をぬき出して回答することにした。
4. 核融合炉・遮蔽定数WGとの関連  
来年度より炉定数専門部会内に核融合炉・遮蔽定数WGを設け, 新たに  
DDXデータ作成の作業を行うことになった経緯について浅見より説明が

あった。さらに菊池氏より資料(4)にもとづき、この作業に関連する大学の研究グループと核データセンターとで行った調整会合の概要および核融合炉・遮蔽定数WGのスコープについて説明があった。また、神田氏より京大炉の専門研究会の関連グループについての説明があった。

#### 5. 56年度計画

このWGの56年度計画について、浅見から資料(5)によって説明があり、討論を行い、大筋については了承された。この中でJENDL-2の核融合炉関係核データのベンチマークテストを~~FCG~~<sup>FMS</sup>の~~照射~~実験データを用いて行うとよいとの指摘があり、このため、次回にこの~~照射~~実験について中村氏または前川氏に話をしてもらうことにした。

#### 6. 今後の作業の打合せ

原研の大型計算機および核データセンターに、ある中性子実験データファイル(NESTOR, NESTOR2), SPLINT等の現状の説明が浅見よりあり、今後の作業の進め方について討議を行った。

その中で、データファイルになくて追加したデータのstorageに関して議論があり、核データセンター側で検討してみることになった。また、前のプロットは完全なものとみなし、それに追加するデータを各担当毎に調査することにし、この作業のため、核データセンターよりNESTOR2のリストを各担当者に送ることにした。今後の作業は、調査の進んだもの毎に小人数の会合で行い、ある程度、作業が進展してから全員の会合を開くことにした。

次回の会合は一応、6月10日(水)または6月12日(金)とすることにした。